入館無料

平成29年度企画展 2

群馬のくらし 製麺機

平成29年
10月28日(土)☞11月26日(日)

開館時間・午前9時～午後4時／休館日・月曜日及び11月24日／後援・上毛新聞社、ラジオ高崎、J・COM群馬

眞崎式製麺機
発売元は東京の眞崎製麺機商會
個人蔵

高崎市歴史民俗資料館

平成29年度企画展 2

群馬のくらし製麺機

製麺機は明治16年(1883)に佐賀県の発明家・眞崎照郷(まさきてるさと)(嘉永4年1851～昭和2年1927)が木綿の綿実を繰り出す木製の綿繰機(わたくりき)を応用してつくったといわれている。明治36年(1903)大阪で開催された「内国勧業博覧会」に出品して1等賞となったのをきっかけに製麺機メーカーが各地に生まれた。当初は高価だったため普及には時間がかかったが農村部を中心に家庭用製麺機が普及し改良が進んで販路も拡大した。明治40年(1907)に「公衆の利益と公共の事業で実績が著名である」として眞崎照郷に藍綬褒章が授与された。昭和になると製麺機械の動力をモーターに変えた機械製麺が普及して大量生産が可能になり家庭用製麺機は昭和50年代に使われなくなった。

ふるさとの味をつくる

セブン製めん機「おふくろ」

セブン金属工業所が製造した。側面に歯車が4つついている。脚のアーチ部分のプレートに「NAGANO」と刻まれていることから長野県で製造された製麺機と思われる。小野式1型片刃に似ているが、湾曲したハンドルは小野式両刃型、ハの字に開いた本体のアーチは永井式、縦に「☆7」とある。製麺機の最終型と思われ、既存の機種の要素が多用された結果と考えられる。

個人蔵

FUJIマーク製麺機

詳細不明。両刃型。

個人蔵

東沢式製麺機

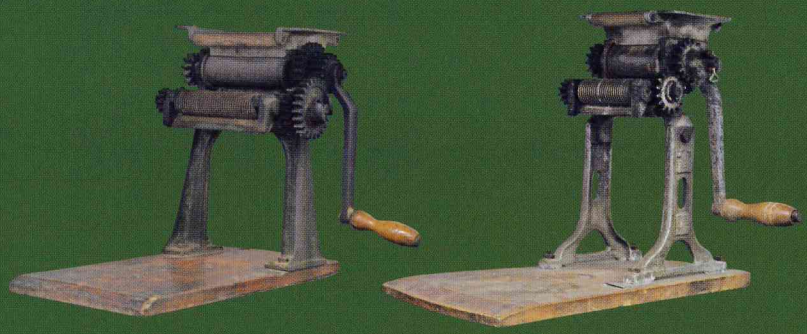
詳細不明。台板の裏に「昭和参拾一年壱月」と購入年月日と思われる記載がある。脚に「東沢式」の装飾がある。

個人蔵

高陽製麺機

詳細不明。

高崎市歴史民俗資料館蔵



宝田（ほうでん）式製麺機

現在も農産物の粉砕加工の製粉機などを製造している京都の宝田工業株式会社製である。台板に「ホーデン式」と焼印が押されている。曲線を多用し、深緑色のフレームと赤色のギアの独創的なデザインが特徴である。
個人蔵

USIKUBOKIKAI・日光號

すべての面が曲線の組み合わせで構成されている。側面に「USIKUBO KIKAI」、じょうご状の受け皿「ホッパー」に「日光號　NIKKOGO」と浮彫されている。
個人蔵

小野式A型製麺機

高崎市歴史民俗資料館蔵

池永式製麺機

新製品。平成25年6月に大阪の池永鉄工株式会社が製造し発売した最新型の製麺機である。基本構造は変らず木製の台座をもたない黒い製麺機。
個人蔵

眞崎式製麺機

明治時代に日本初の製麺機を考案した佐賀の発明王眞崎照郷が経営する眞崎製麺機械は、日本の麺文化を飛躍的に発展させた。1本足の部分に「眞崎式」とある。
個人蔵

PEACE製麺機

詳細不明。
高崎市歴史民俗資料館蔵

日本式製麺機

製造所名は不明。耐久性にすぐれている。脚部分に「日本」と装飾されていることから、仮に「日本式製麺機」と呼ばれている。台板の裏に「昭和二年一月良日」と購入年月日と思われる記載がある。
個人蔵

アダチ・スター型

詳細不明。側面のハンドルを回すと、歯車を介して2対あるローラーが回転する。両側面に「アダチ」「スター型」と刻印された青い機体。通称「テリーマン」。
個人蔵

撮影：オカダ タカオ

高崎市歴史民俗資料館　〒370-0027 群馬県高崎市上滝町1058　tel/fax:027(352)1261　E-mail:rekimin@city.takasaki.lg.jp
http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2013121900362/

小野式製麺機
1号型　両刃型

小野式製麺機
前期型

小野式の両刃型は大きな歯車のあるものが多いが、その前期型と思われる歯車のないタイプもある。
個人蔵

小野式製麺機
1号型丸ハンドル

埼玉県戸田市にある小野機械製造所が製造した小野式製麺機は、家庭用製麺機の中で最も数が多く一般的な製麺機である。脚部分に「小野式」とある。小野式製麺機の中でも、特にローラーと切刃の回しやすさを追求した丸ハンドルである。小野式には旧型・新型があり、片刃型と両刃型の1号型の他、それぞれに大型サイズの2号・3号型、片刃型で丸ハンドルの高生産モデルなどバリエーションが豊富である。
個人蔵

田中式製麺機

鋳物の街で知られる埼玉県川口市の株式会社田中機械製作所が製造した蒼い塗装の大型機種の製麺機である。脚部分に「㋡田中式」とある初期型は推定1930年代～。歯車の歯筋を斜め切ったヘリカルギア（はすば歯車）が使われており、滑らかで静かである。田中式は中期型（推定1940年代～）、後期型（推定1950年代～）と世代交代している。

個人蔵

初期型（推定1930年代～）

中期型（推定1940年代～）

後期型（推定1950年代～）

初期型（推定1950年代～）

中期型（推定1960年代～）

後期型（推定1970年代～）

永井式製麺機

鋳物業が盛んな川口市で昭和13年に創業した永井機械製作所が戦後に製造した製麺機である。永井式は大胆な形状変化をしている。初期型（推定1950年代～）は、当時貴重だった鉄の使用量を減らすために独特の1本足になったと見られているが、中期型（推定1960年代～）は一般的な2本足に変更された。朱色の五弁の花びらを模した丸ハンドルが特徴の後期型（推定1970年代～）は、足のアーチに「NAGAI　TYPE」と装飾がある。初期型の切刃は逆回転ができない。

個人蔵

講演会　11月5日（日）10:00～12:00
テーマ　「群馬県民が愛した家庭用製麺機の世界」
講　師　フリーライター　玉置標本　氏
定　員　50人
参加費　無料　※高崎市歴史民俗資料館 東館2階
（tel:027-352-1261）に電話申込が必要
会　場　高崎市歴史民俗資料館2階 会議室

◆ 講師プロフィール　玉置標本（たまおきひょうほん）

フリーライター。友人が持っていた家庭用製麺機の格好良さ、使い心地に惚れ込んで即購入。麺作りの奥深さと共に、製麺機の歴史やバリエーションなどにも興味を持ち、同人誌「趣味の製麺」を現在までに7冊発刊。製麺機を30台以上所有しているコレクター。

高崎市歴史民俗資料館

アクセス
① JR高崎駅西口（群馬中央バス）県立女子大行き約30分「慈眼寺裏」下車徒歩3分
② JR高崎駅東口（群馬バス）　亀里JAビル行き約20分「下滝西」下車徒歩8分
③ JR高崎駅東口（ぐるりん）　群馬の森線「滝川郵便局入口」下車徒歩15分
④ 関越自動車道（高崎 IC）5分
⑤ 関越自動車道（高崎玉村スマート IC）3分
⑥ 北関東自動車道（前橋南 IC）5分

駐車場：大型車 3台／普通車 20台